みずほマーケット・トピック（2022 年 8 月 19 日）

内容　1．為替相場の動向　　2．来週の注目材料
※誠に恐れ入りますが、「3．本日のトピック」はお休みさせて頂きます。

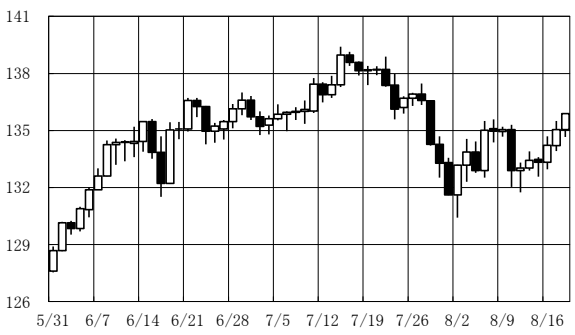
1．為替相場の動向（関連レポート：「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」）

- 今週のドル/円は週後半にかけて続伸、堅調な推移となった。週初15日、133.30円でオープンしたドル/円は複数の中国の経済指標の冴えない結果に景気減速懸念が高まりリスク回避の円買いの動きが強まった。海外時間では米8月NY連銀製造業景気指数が急低下したことで一時週安値の132.56円まで下落。その後は米株が持ち直したことで133円台を回復した。16日、ドル/円は新規材料に乏しい中、133円台前半で小動きだったが、海外時間では米金利上昇や米7月鉱工業生産の市場予想を上回る結果にドル買いが強まり134円台半ばまで上昇した。17日、ドル/円は東京時間に下げ幅を拡げ134円台を割り込んだが、海外時間では米7月小売売上高の結果や前日からの米金利上昇に伴うドル買いにサポートされて135円台半ばまで急伸。その後は7月FOMC議事要旨で将来的な政策金利引き上げペース緩和の可能性が示唆され、ドル売りが加速し135台前半まで下落した。18日、ドル/円は米長期金利低下に一時134円台半ばまで続落したが、その後は米8月フィラデルフィア連銀製造業景況指数の力強い結果や複数の米当局者のタカ派的な発言に一時週高値の135.90円まで急上昇した。本日のドル/円も前日の高値を更新する取引となっている。
- 今週のユーロ/ドル相場は続落し、上値の重い展開となった。週初15日、1.0255でオープンしたユーロ/ドルは直後に一時週高値の1.0269まで上値を伸ばすも、海外時間では原油先物価格の急落や独7月卸売物価指数の低下に加え、独長期金利低下も相まって1.01台半ばまで急落。16日、ユーロ/ドルは1.01台半ばでの揉み合いだったが、欧州時間に入り、独8月ZEW景気指数の冴えない結果に1.01台半ばまで下落。その後は欧州株の堅調推移や独長期金利の持ち直しにユーロ買いが強まり1.01台後半まで反発した。17日、ユーロ/ドルはユーロ圏4～6月期GDPの下方修正を受けて1.01台半ばまで下落も、その後は7月FOMC議事要旨のハト派的な内容を受けドル売りが加速、1.02ちょうど付近まで持ち直した。18日、ユーロ/ドルは複数の米経済指標の良好な結果や米当局者の相次ぐタカ派的な発言を受けドル買い優勢となり、一時週安値の1.0080まで急落。本日のユーロ/ドルもその水準での取引が継続している。

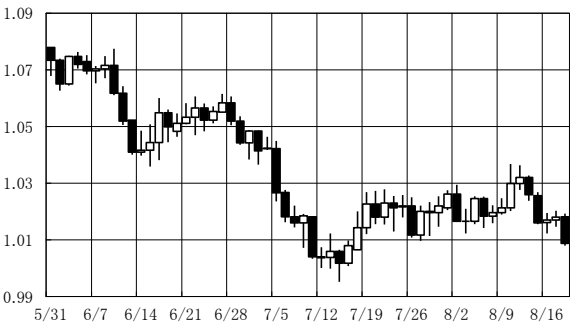
今週のおもな金融市場動向（出所：ブルームバーグ、みずほ銀行）

		前週末	今週			
		8/12(Fri)	8/15(Mon)	8/16(Tue)	8/17(Wed)	8/18(Thu)
ドル/円	東京9:00	133.02	133.30	133.12	134.30	134.97
	High	133.89	133.60	134.68	135.50	135.90
	Low	132.89	132.56	132.95	133.91	134.65
	NY 17:00	133.61	133.32	134.26	135.10	135.90
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0321	1.0255	1.0159	1.0169	1.0176
	High	1.0327	1.0269	1.0195	1.0201	1.0193
	Low	1.0239	1.0155	1.0123	1.0146	1.0080
	NY 17:00	1.0257	1.0159	1.0172	1.0178	1.0087
ユーロ/円	東京9:00	137.28	136.77	135.35	136.64	137.41
	High	137.70	136.93	136.88	137.88	137.64
	Low	136.91	135.30	134.95	136.28	136.59
	NY 17:00	136.93	135.46	136.51	137.47	137.13
日経平均株価		28,546.98	28,871.78	28,868.91	29,222.77	28,942.14
TOPIX		1,973.18	1,984.96	1,981.96	2,006.99	1,990.50
NYダウ工業株30種平均		33,761.05	33,912.44	34,152.01	33,980.32	33,999.04
NASDAQ		13,047.19	13,128.05	13,102.55	12,938.12	12,965.34
日本10年債		0.19%	0.18%	0.17%	0.18%	0.19%
米国10年債		2.84%	2.79%	2.81%	2.90%	2.88%
原油価格(WTI)		92.09	89.41	86.53	88.11	90.50
金(NY)		1,815.50	1,798.10	1,789.70	1,776.70	1,771.20

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

・ 米国では、25 日(木)～27 日(土)にかけて、ジャクソンホール経済シンポジウムが開催される。今週には 7 月 FOMC 議事要旨が公表されており、前回 6 月会合に続いて 75bps の利上げを決定した裏で、どこかの時点で利上げペースを減速することが適切であるとの認識を示した。ただしその時期については FOMC メンバー間で意見が割れており、あくまで当面は経済指標の結果を踏まえながら柔軟に対応する姿勢を強調した。また、現状においては労働市場のひっ迫もあってインフレ圧力が弱まっていることを示す証拠はないとの見方を維持している。とは言え、メンバーの総意として、インフレ抑制のため更なる金融引き締めが求められているとしていることからも次回 9 月会合から年末にかけても利上げが第一となるだろう。来週のジャクソンホール経済シンポジウムでは 7 月の議事要旨の結果を踏まえながら、9 月の利上げに向けた地均しをすると共に以降の金融政策に係る情報が発信されることが予想される。なお、経済指標関連では、23 日(火)に 7 月新築住宅販売件数が公表される。供給制約による物件価格の上昇と住宅ローン金利の上昇が引き続き需要を抑制する展開が継続するとの見方は強く、ブルームバーグの事前予想では 7 月の結果を 58 万件と予想している。

・ 欧州では 23 日(火)にユーロ圏 8 月 PMI(速報)が発表される。7 月総合 PMI は 49.9 と 6 月の 52.0 から悪化し、21 年 2 月以来となる業況の改善・悪化の境目となる 50 を下回った。国別ではドイツやイタリアなどの悪化が目立った。内訳を見ると、製造業が 49.8 でサービス業は 51.2 となった。製造業に関しては 20 年 6 月の水準にまで落ち込んだ。天然ガス供給懸念が燻る中、資源価格の高騰とインフレが長期化しこれが業況にも影響した格好で需要面の減速も確認された。一方、サービス業に関しても 3 か月連続で下落した。製造業とは異なり 50 を上回ったが、22 年 1 月以来の水準まで悪化している。今年の冬場以降の行動制限措置の緩和によって個人消費の急増が期待されていたものの、その影響はインフレに打ち消されつつある状況になっていることが報告された。なお、8 月の結果は引き続き軟調な結果が予想されており、ブルームバーグの事前予想では製造業、サービス業をそれぞれ 49.3、50.5 している。

	本　　邦	海　　外
8 月 19 日(金)	・7 月全国 CPI	・ユーロ圏 6 月経常収支
22 日(月)	――――――――――――――	・米 7 月シカゴ連銀全米活動指数
23 日(火)	・8 月製造業/サービス業 PMI (速報)	・ユーロ圏 8 月製造業/サービス業 PMI (速報) ・ユーロ圏 8 月消費者信頼感指数 (速報) ・米 8 月製造業/サービス業 PMI (速報) ・米 8 月新築住宅販売件数
24 日(水)	・7 月工作機械受注 (確報)	・米 7 月耐久財受注 (速報)
25 日(木)	・7 月企業向けサービス価格指数	・米 4～6 月期 GDP (確報) ・米ジャクソンホール経済シンポジウム (27 日まで)
26 日(金)	・8 月東京 CPI	・米 8 月ミシガン大学消費者マインド (確報)

【当面の主要行事日程(2022 年 8 月～)】

ジャクソンホール経済シンポジウム (8 月 25～27 日)
ECB 政策理事会 (9 月 8 日、10 月 27 日、12 月 15 日)
FOMC (9 月 20 日～21 日、11 月 1～2 日、12 月 13～14 日)
日銀金融政策決定会合 (9 月 21～22 日、10 月 27～28 日、12 月 19～20 日)

市場営業部・金融市場部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html （Archives） http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2022年8月18日	過去最大を更新し続ける貿易赤字
2022年8月17日	生産者物価指数（PPI）と交易条件と円相場
2022年8月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2022年7月分）
	本邦4～6月期GDP～形ばかりの「コロナ前」回復～
2022年8月15日	独経済は不況の淵に～ライン川の水位低下～
2022年8月12日	週末版
2022年8月10日	独ライン川の水位低下とユーロ安リスク
2022年8月9日	2022年上半期の国際収支統計を受けて
2022年8月8日	ECBの再投資柔軟化はどこまで可能なのか？
2022年8月5日	週末版（ドル/円相場の近況をどう考えるか～歴史的な大相場は調整も非常に大きい～）
2022年7月29日	週末版（米4～6月期GDPの読み方～リセッション判断は尚早～）
2022年7月27日	IMF世界経済見通し（7月改定）を受けて
2022年7月25日	ドル/円相場の近況をどう評価するか？
2022年7月22日	週末版（ECB政策理事会を終えて～前門のインフレ、後門のリセッション、TPIという二番煎じ～）
2022年7月20日	ECB は7月+50bp利上げに舵を切るのか
2022年7月19日	パリティ割れの背景整理～歴史に学ぶ教訓～
2022年7月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2022年6月分）
	週末版(ユーロ圏景気とユーロ相場の展望～ユーロ安でてこずるインフレ抑制～）
2022年7月14日	米インフレ加速も住宅市況には変調の兆しも
2022年7月12日	やはり顔を出し始めた新規感染者主義
2022年7月11日	リフレ政策の今後～悲報との因果関係はなし～
2022年7月8日	週末版（世論に効き始めた物価上昇圧力～日銀がスケープゴートにされる可能性～）
2022年7月7日	ユーロ相場急落の背景～ECBハト派化より重要なこと～
2022年7月5日	やはり反対していたドイツ～緊急政策理事会～
2022年7月4日	世界の外貨準備状況～22年3月末時点～
2022年7月1日	週末版（2年9ぶりのAPP停止と域内債券グループ化構想～遂に始まる加盟国の階層化～）
2022年6月28日	家計金融資産は動き出すか～22年3月末の状況～
2022年6月27日	世界は通貨高競争へ～逆・近隣窮乏化策の始まり～
2022年6月24日	週末版（ECB緊急政策理事会の読み方～落ち着かないラガルド流～）
2022年6月22日	「ドル高の裏返し」とは言い切れない円安の近況
2022年6月21日	タカ・ハト両面を演じるECB～難しいナローパス～
2022年6月20日	疑似的な通貨危機の様相を呈する日銀運営
2022年6月17日	週末版（ECB緊急政策理事会の読み方～落ち着かないラガルド流～）
2022年6月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2022年5月分）
	FOMCを終えて～円安地合いは固まるばかり～
2022年6月14日	悲惨指数を感じなかった日本人
2022年6月13日	米5月CPIから予見される「円だけマイナス金利」の未来
2022年6月10日	週末版（ECB政策理事会を終えて～利上げ幅拡大も示唆～）
2022年6月9日	黒田発言をどう解釈するか～リフレの終幕と実質GDI～
2022年6月8日	金利が説明力を持ち始めているか～133円台を受けて～
2022年6月7日	要請経済の継続はトリプル安に～参院選と金融市場～
2022年6月6日	ECB政策理事会プレビュー～サプライズがあるとすれば～
2022年6月3日	週末版（旅行収支と円相場の需給～制限ありきではインバウンドの影響なし～）
2022年6月2日	変容しつつあるユーロ圏物価情勢の現状と展望
2022年5月31日	31年連続、「世界最大の対外純資産国」の読み方
2022年5月27日	週末版（ドル/円相場と理論的な尺度について～もはや参考にしづらいPPPからの乖離～）
2022年5月26日	ブログで政策修正を図ったECBの真意～その②～
2022年5月25日	ブログで政策修正を図ったECBの真意
2022年5月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2022年4月分）
	週末版（円安相場は終わりなのか？～先行きは夏場以降の政治次第～）
2022年5月19日	本邦1～3月期GDPを受けて～「成長を諦めた国」～
2022年5月17日	ECB、「行動の夏」が意味するところ
2022年5月16日	円のREERは変動相場制以前の水準へ
2022年5月13日	週末版
2022年5月12日	米4月CPIと今後の考え方について
2022年5月11日	インバウンド解禁と円安抑制の関係性
2022年5月10日	「資産所得倍増プラン」の危うさ～為替・金利への影響～
2022年5月9日	「中銀の財務健全性」と「通貨の信認」について
2022年5月6日	週末版（FOMCを終えて～「50bps→25bps」のブレーキが重要～）
2022年5月2日	円安を止める3つの処方箋～日銀・原発・インバウンド～
2022年4月28日	週末版
2022年4月27日	ECB、7月利上げ説は本当なのか？
2022年4月25日	円安にまつわるQ&A：よくある疑問の論点整理
2022年4月22日	週末版
2022年4月21日	円の命運はまだ自ら変えられる～需給で円安の修正余地～
2022年4月20日	IMF春季世界経済見通し～戦争が変えるメインシナリオ～
2022年4月19日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2022年3月分）
	表舞台に引きずり出された日銀の現状と展望
2022年4月18日	本当に恐ろしい円安リスクは「家計部門の円売り」
2022年4月15日	週末版（ECB政策理事会を終えて～勝負は6月会合に～）
2022年4月14日	「インフレで苦しむ」を想像できない日本
2022年4月13日	円安を止めるには～日本要因と米国要因～
2022年4月11日	ECB政策理事会プレビュー～レーン理事に同調～
2022年4月8日	週末版（本邦2 月国際収支統計を受けて～円安の流れを変えられるかは日本次第～）
2022年4月7日	FOMC議事要旨～株価に対し非常に厳しい内容～
2022年4月6日	「日本売り」を認められない論陣をどう評価するか
2022年4月5日	過去最低を更新したドル比率～世界の外貨準備運用～
2022年4月1日	週末版（細る対内証券投資～今後も嫌われそうな日本市場そして円～）
2022年3月30日	日銀とトルコ中銀の類似性～ルーブルにも負ける円～
2022年3月28日	円安のメリット・デメリット～優勝劣敗の徹底～
2022年3月25日	週末版
2022年3月22日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2022年2月分）
	「貿易黒字の消滅」から「貿易赤字の定着」へ
2022年3月18日	週末版（GDPデフレーターに注目すべき局面～「デフレの原因はインフレ」という理解～）
2022年3月17日	FOMCを終えて～短期決戦型の利上げ。効果は24年以降～
2022年3月15日	円安相場の考え方～「三歩進んで二歩下がる」～
2022年3月14日	3つの円安要因～「成熟した債権国」が終わる時～
2022年3月11日	週末版（ECB政策理事会を終えて～「戦下の正常化」に着手～）
2022年3月9日	経常赤字は新常態なのか？～「債権取り崩し国」へ～